

北九州市の人口動態

コロナ禍で流出激減

新型コロナウイルスの感染が拡大するなかで、人口の移動が縮小している。北九州市への転入者は、2019年の45822人から20年には42797人へと、3025人（6.5%）少なくなった。北九州市からの転出者も、19年46522人から20年の43839人へと、2683人（5.8%）減少している。

しかし、転入者から転出者を引いた数をみると、19年の△700人から20年は△1042人と減少数が拡大している。依然として、北九州市の人口流出は継続している。

■ 県外移動 流出人口が激減

資料1に、19年と20年の、北九州市のブロックごとの人口移動を示す。これをみると、総数の転出超過数（転入者－転出者）は拡大しているが、県外への転出超過数は縮小している。このことが、20年の人口移動の特徴の一つである。

県外からの転入者は、19年の15038人から20年には14434人へと、604人（4.0%）減少した。一方、県外への転出者も15833人から14492人へと、1341人（8.5%）減少している。転入者から転出者を引いた数は△58人となり、19年の△795人から、737人も縮小している。県外移動での転出超過数が100人を下回るのは、2012年以来8年ぶりのことである。

主要地域間との移動状況は、次のとおりである。中国地方からの転入超過数は、昨年の502人から389人へと113人縮小している。しかし、①首都圏への転出超過数は、19年の△1316人から20年△955人へと、361人縮小している。また、②近畿圏への転出超過数も、△331人から△240人へと、91人縮小している。③福岡県を除く九州7県からの転入超過数は、19年の340人から20年624人へと、284人増加している。これらにより、県外への流出人口が8年ぶりに100人を下まわることになった。

資料1 コロナ禍で縮小する人口移動

	転入者				転出者				転入者－転出者		
	2019	2020	増減	率	2019	2020	増減	率	2019	2020	増減
総数	45,822	42,797	△3,025	△6.6	46,522	43,839	△2,683	△5.8	△700	△1,042	△342
県外	15,038	14,434	△604	△4.0	15,833	14,492	△1,341	△8.5	△795	△58	737
うち首都圏	2,951	2,976	25	0.8	4,267	3,931	△336	△7.9	△1,316	△955	361
〃近畿	1,633	1,712	79	4.8	1,964	1,952	△12	△0.6	△331	△240	91
〃中国	2,815	2,608	△207	△7.4	2,313	2,219	△94	△4.1	502	389	△113
〃九州（7県）	5,322	4,928	△394	△7.4	4,982	4,304	△678	△13.6	340	624	284
県内	26,715	25,944	△771	△2.9	28,344	27,347	△997	△3.5	△1,629	△1,403	226
うち福岡地域	5,091	4,968	△123	△2.4	6,925	6,539	△386	△5.6	△1,834	△1,571	263
〃北九州地域	19,323	18,804	△519	△2.7	19,026	18,823	△203	△1.1	297	△19	△316
国外	3,562	1,652	△1,910	△53.6	1,472	909	△563	△38.2	2,090	743	△1,347

注) ①総数には「不詳・その他」を含む。②「九州7県」とは、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県である。

資料) 福岡県「人口移動調査」

■ 県内移動 続く福岡市への流出

県外への転出超過数は縮小しているが、福岡県内での移動状況はどうか。

県内の他市町村から北九州市への転入者は、19年の26715人から20年には25944人へと、771人(2.9%)少なくなった。一方、北九州市から他市町村への転出者も19年28344人から20年の27347人へと、997人(3.5%)減少している。どちらも減少しているが、減少率は県外移動に比べると緩やかだ。

転入者から転出者を引いた数は、19年の△1629人から20年△1403人へと、転出超過数は縮小している。とはいえ、県内での移動状況は、依然として1000人を超える人口流出が続いている。

地域別にみると、福岡地域への転出超過数は、19年の△1834人から20年△1571人へと263人縮小した。しかし、1000人を超える人口流出は続いている。福岡地域への流出が、北九州市の県内流出分の大部分を占める。この点は、コロナ禍でも、これまでの傾向に変わりがない。

■ 国外移動 転入者が半減

新型コロナウイルスの感染が拡大するなかで、海外との人口移動が縮小している。このことも、また、20年の人口移動の特徴の一つである。2017年頃から、ベトナム、ネパール、フィリピンなど海外からの転入者が増加してきた。この流入者が、北九州市の人口減少を緩和していた。しかし、コロナ禍で状況が変わった。20年は、国外からの転入者が減っている。

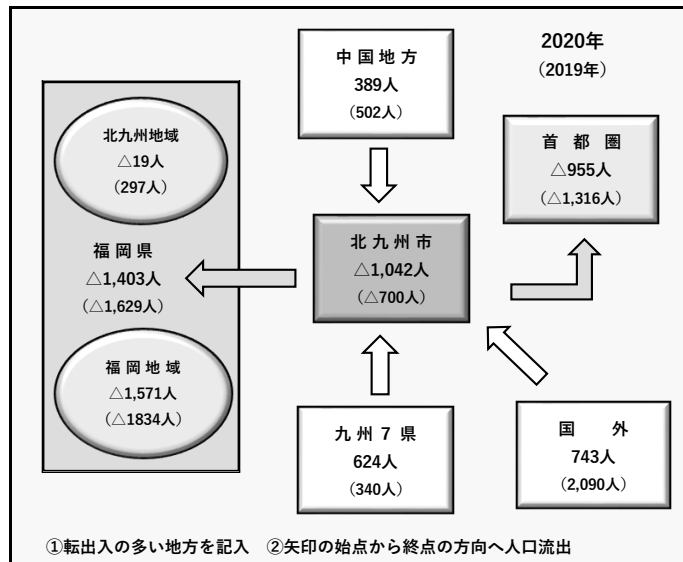
具体的には、国外から北九州市への転入者は、19年の3562人から20年には1652人へと、1910人(53.6%)も減少した。一方、国外への転出者も、19年1472人から20年には909人へと、563人(38.2%)減少している。転入者から転出者を引いた数は、19年の2090人から20年は743人へ、3分の1近くにまで減少した。その分だけ、国内への流出者を国外からの流入者で相殺することが、できなくなった。

これが、県外への転出超過数が縮小したにもかかわらず、北九州市の流出人口が19年の△700人から20年△1042人に拡大した、大きな要因である。

参考 年齢別移動

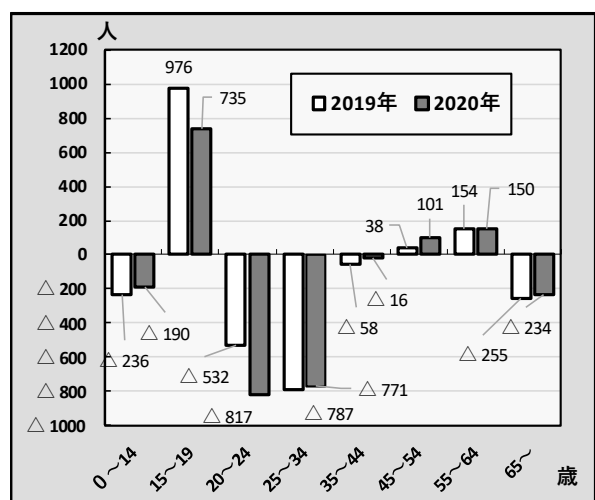
参考として、年齢階層別の移動状況もみてみる。①15～19歳は転入超過であるが、②20～24歳と25～34歳では転出超過になっている。②が①よりも多く、残念ながら、いわゆる“若者の流

資料2 人口移動の地域間フロー図



資料) 福岡県「人口移動調査」

資料3 年齢階層別にみた流入者数



注) 数値は「流入者-流出者」 資料) 福岡県「人口移動調査」

出”は、2020年も続いている。

19年と比べると、15～19歳の市外からの流入者数は976人から735人へ、241人減っている。一方、20～24歳の市外への流出者数は△532人から△817人へ、285人増えた。2020年は、19年より、若者層の流出が拡大したことになる。